

大原山報



山主 戒誓信玄

結城秀康と西福寺

NHKの大河ドラマ「どうする家康」で、話題になっていている結城秀康公は西福寺とは深い関係があります。

徳川・松平家が浄土宗に篤く帰依していたことにも依りますが、特に西福寺は福井藩松平家との繋がりが深いお寺です。

結城秀康公は幼名を於義丸。

法名 浄光院殿森巖道譽運正大居士。

徳川家康の次男にして二代將軍秀忠の庶兄になります。生母は長勝院永見氏

(お方の方) 三河池鯉鮒の神主志摩守小野吉央(後に村田意竹と称す)の娘で、天正二年正月五日生まれ、永見氏の孕めるや築山殿(家康の正室)に憚る処あり、遠江浜松城外雄踏村に於いて産まれてい

※越の秀嶺 西福寺



勝骨勅願の寺所



ます。家康も亦、子として養わず本田重次之を撫育し、同四年兄信康に因りて家康公と父子の対面をしております。

同十二年十月豊臣秀吉の猶子と為り、秀康(秀吉の秀と家康の康)と称し従四位下侍従に任じ羽柴三河守秀康となる。時に十一歳なり、秀吉に実子が誕生した為、同十八年秀吉の命に依り結城晴朝の娘の養嗣子となり家督を継ぎ**結城秀康**となったのです。

武将としての器量は一流で周囲からも認められており、武勇抜群、剛毅で体軀も良かったと言われている。何よりも実父家康、養父秀吉・結城晴朝から大事にされた存在であった。

慶長五年、関ヶ原の役の功により越前六十八万石を与えられ、同十年正三位中納言に進叙されました。

中納言秀康(結城氏) 福井藩祖 當山十八世天榮上人ニ帰依シ庶子竹治郎ヲ出家セシム 當山二十一世呑榮(敦榮)上人是ナリ 亦書院ノ木材ヲ寄付シ曼荼羅表具ノ修繕ヲ為ス

【西福寺寺誌】

當山十八世天榮上人は武蔵國の人で、特に徳川家康公の寵遇を受け、慶長七年冬、福井城主中納言秀康の招請に依り西福寺に晋山。同八年八月秀康公西福寺に参詣して天榮上人に念佛の宗要を聞き大いに感化され、庶子竹治郎(八歳)を託して出家せしむ。之を敦榮(後に呑榮と改名)と名付く。

越の秀嶺

當山二十一世見蓮社正誉上人良和呑榮大和尚は福井藩主結城秀康公の庶子であり松平忠直公の異母弟にして、將軍徳川家康公の孫にあたります。呑榮上人は西福寺興隆に尽力された大徳であり、山内には、書院(結城秀康公寄進)、鬱金桜(松平忠直公御手植)、また宝物として越前松平家との関係がしのばれる古文書・文化財が多く遺されています。また、現在も越前松平家、徳川歴代將軍の位碑を奉安しています。

徳川御三家・御三卿・越前松平家の方がご住職となられた寺は『秀嶺』と呼ばれ、西福寺は特に十五弁の三つ葉葵の紋を使うことを許された寺でもあります。その由縁により西福寺は『越の秀嶺』と呼ばれています。

※徳川御三家・御三卿、越前・会津(松平家)の方がご住職となられた寺は『秀嶺』と呼ばれる。

特別寄稿 未来に伝えたい万人の善意



後藤 ひろみ

福井県立歴史博物館カフェを営みながら、〈ふくい歴史の会〉代表として福井の歴史を満喫している後藤ひろみと申します。

私と西福寺のご縁は二〇一八年発行

『コミック版日本の歴史・大谷吉継(ポプラ社)』の原作を担当したことから始まります。四五〇年ほど前に生きた人を描くにあたり、私は先ず本人が書いた書状からその人となりイメージしていきます。西福寺には吉継公直筆の書状四通が残されており、病に効く薯蕷(山芋)を贈ったお寺の心遣いを喜び、寺が免税になるよう努め、住職の病に後継者や医者の手配まで気遣う様子が伝わります。浮かび上がるのは、地域やそこに住む人々と心を通わせ、思いやり寄り添う人物像。そんな姿をコミックに描かせていただきました。

西福寺を大切にしたのは大谷吉継だけではありません。現在放送中の大河ドラマ主人公・徳川家康も浄土宗を信仰し、その次男で初代福井藩主となった結城秀

康も西福寺を大切にしました。私は先月発行の同シリーズ『結城秀康』原作も書かせていただきましたが、子息・吞栄上人を西福寺住職とした秀康の心に触れなくて、何度も西福寺で二橋御住職にお話を伺ってきました。

家康が「穢れたこの世を浄土に、戦のない平和な世を作る」との決意で『厭離穢土欣求浄土』(※1)を旗印とし「南無阿彌陀仏」と書き続けたお話には涙がこぼれました。「越の秀嶺」、徳川家ゆかりのお寺にだけ許されるこの呼び方の重み、天下泰平を招くため臨み続けた徳川一族の決意が、お寺のそこかしこに掲げられる葵の御紋から伝わってきます。

阿彌陀堂も本屋上半部は朝倉氏と西福寺の深い縁により一乗谷から譲り受けたと伝わります。信長によって焼き尽くされた一乗谷朝倉氏の栄華が、西福寺の中に今もひっそりと息づいているなんて!訪れるたびに感動が募ります。

こうしてそれぞれの時代に大切にされてきた西福寺が、今、修復されています。今を生きる私たちが見ることができない、修復中の御影堂を仰ぎ、百年・千年先の人が目にする景色を作っているのかと不思議な感動を覚えます。

修復には大きな費用が掛かるそうで、非力の私はどんな応援ができるだろうと途方にくれるのですが、みなさんの合言

葉『普請衆力』(※2)(あまねく衆力を請う)に救われています。より多くの人が賛同し、たとえわずかでも、善意を持ち寄って完成させてこそ、御影堂に心が宿るといふ呼びかけに、それなら私にもできることがあります。そういえば西福寺と縁のある朝倉氏の家訓に「一人に一万疋の値段の名刀を持たせても百疋の鎧を持つ百人にはかなわない」という一節があります。今回の修繕は私たちに力を合わせるこの大切さ、「衆力」というものを教えてくれているのかもしれない。

西福寺山門に立ち、御影堂を見上げると、悠久の時の中で一体どれだけの人がここに立つのか、私たちの心は未来の子供たちにも届くだろうか、いろいろな思いがこみ上げます。山から里へ吹きぬける心地よい清風を感じながら、つい南無阿彌陀仏と手が合わります。これからもこのご縁に感謝しながら西福寺を応援していきたいと思っております。

※1 えんりえどごんぐじょうど
※2 ふうしんしゅうりき

後藤ひろみ 福井市生まれ。「ふくい歴史の会」会長。ベーカーリーカフェ「たねと、はつば」(現在休店)、福井県歴史博物館内「歴博茶房」ときめぐる、カフェー」経営。福井県歴史活用コーディネーター。「コミック版日本の歴史」シリーズ(既刊八十七巻 ポプラ社)最新刊「結城秀康」を始め「松平春嶽」「大谷吉継」「柴田勝家」「洪沢栄一」などの原作者。「歴飯ヒストリア」(つちや書店)レシビ監修。令和四年福井県文化奨励賞受賞。テレビ出演、企業・大学での講演も多数。

宿願 『令和の大修復』 勸募のお願い



『普請衆力』ふうしんしゅりき

普請とは土木工事や建築を示す言葉で

すが、仏典に出てくる言葉で、寺の堂塔建造には仏天の擁護のもと、あらゆる多くの人々のご理解、労力奉仕や資金の提供等の協力が必要であり、浄業達成のため、一人でも多くの方々のご協力を願う次第です。

合掌九拜

国指定重要文化財の御影堂・庫裏玄関等の修復工事を『令和の大修復』として、寺檀一体となつて邁進努力致しております。

しかしながら、當山にとりましては総工費二十八億円と言つとんでもない大事業でありますれば、皆様の懇志御協力で頼るほかありません。

国の九鼎であり、福井県そして敦賀市の寶である西福寺の法城を何としても守らねばなりません。大原山復興の願いを共有して頂き、この浄業達成のため、ご理解を戴き、浄財のご寄進を賜りたく、伏して勸募のお願いを申し上げます。

大原山 西福寺 合掌

西福寺に伝わる貴重な文化財の数々と伝統建造物を継承保存すべく、市内外の政治・経済・文化・観光等、各界・各層の文化財愛好の識者、広くは市民の方々のご理解、ご支援をいただいで、これら建造物文化財の修復整備の大事業完遂に邁進いたしております。つきましては、名刹 西福寺修復のために特段のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

西福寺文化財修理事業奉賛会

《十夜法要》

記

一、日時 十一月十八日(土)

午後一時半より

一、説教 総本山知恩院布教師

山泉 慶林院 加藤恭慈上人

一、場所 法然上人仮御堂

半鐘の参れ参れと鳴る十夜 (壹童子)

万障お繰り合わせの上、お参りください。

大原山 西福寺

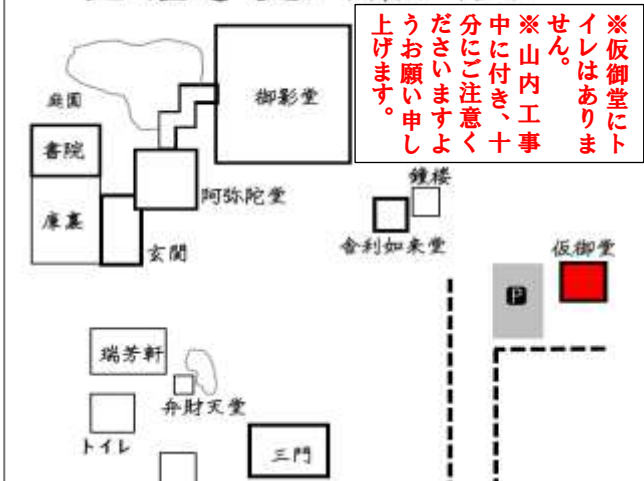
西福寺修復事業積立金

寄進者御芳名 (六回目掲載)

| | | |
|-------|--------|-------|
| 今庄 | 西村 信子様 | 五十万円 |
| 三島西蓮寺 | 花木 信徹様 | 五千元 |
| 三島 | 宮下 あき様 | 一万円 |
| 東京 | 匿名 | 千四百円 |
| 長浜市 | 境内修復浄財 | 一万四百円 |

※右、御芳名を記し、西福寺修復事業に充当させていただきます。ご寄進者に対し心より厚く御礼申し上げます。

西福寺境内案内図



御影堂覆屋の基礎工事状況

寺務所通信

今後の行事予定

【特別納骨 施餓鬼会】
十月一日(日)
十四時〜

【別時念佛 法話の会】
**十月三日(火)は
お休みします**

【別時念佛 法話の会】
十一月三日(金)
十四時〜

【十夜法要】
十一月十八日(土)
十三時半〜

【別時念佛 法話の会】
十二月三日(日)
十四時〜

【除夜の鐘】
十二月三十一日(日)午後十一時〜
一〇八で終わります

【修正会】
一月一日(月)

※コロナ禍の状況により各法要行事等の変更がある場合があります。西福寺ホームページと合わせてご覧ください。

大原山アルバム

七月十九日豊田市より来山された隨應院檀家の八木哲也衆議院議員と懇談される山主



八月四日暁天講座にてお話しされる米澤光治市長



暁天講座「供養のお粥を参詣者と共に米澤市長と山主



九月八日後藤ひろみさんより『結城秀康』新刊本を寄贈される



九月七日三成くん(長浜市)とよつしー(敦賀市)共同撮影



八月二十四日工事関係者による山門楼上特別見学会



【各種教室】

◎書道教室:
井上白紗
月二回週末
一回千円

◎ヨガ教室:
川島香
第二・四金曜
一回千円

◎華道教室:
甫里定榮
第二・四木曜
月謝二千円
花代各千円



作：松尾佑一



編集兼発行人：二橋 信玄 発行所：敦賀市原十三七西福寺寺務所
電話：(0770)22-3926 FAX：(0770)22-4989
メール：saifukuj@tmt.ne.jp